

アイヌ生活文化再現マニュアル

踊り

【ウポポ・ホリツパ・リムセ】

札幌・静内・鷺川編

発刊にあたって

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年より、アイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌ伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

発刊にあたって

はじめに 5

〈札幌地方〉

ハンロー（大地を踏みしめる踊り） 10

フチトノト（酒はこびの踊り） 16

チロンヌプリムセ（狐の踊り） 21

〈静内地方〉

チャピア（あまつばめの舞） 32

ホイヤオー（鶴の舞） 37

エルムンコイキ（ねずみとりの遊び） 43

〈鶴川地方〉

ホリッパ（輪踊り） 52

フッサヘロ（おはら祓いの踊り） 57

おわりに 64

参考文献 66

踊りを体験できる施設 67

— 凡 例 —

- ・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。映像編と文言等で一部異なる個所があります。
- ・アイヌ語はすべてカタカナで表記し、現在各地域で伝承されている言葉で記載しております。

はじめに

アイヌの人たちは祭りや儀式などで人が集まった時には、歌ったり踊ったりしました。踊りは各地の方言によって「リムセ」、「ホリッパ」、「ウボポ」「ヘチレ（ヘチリ）」などと呼ばれ、その種類は多種多様です。狩猟や採集の対象であった動植物をモチーフとして表現したり、体力の続く限り踊る、体力くらべのようなもの、杵つき等の作業の様子を踊りにしたものなどがあります。こうした娯楽としての踊りの他に、神々への感謝の気持ちを表す踊りや、魔を祓うための踊りもありました。



一般財団法人 アイヌ民族博物館蔵 「白老アイヌの生活」(大正11年)より

現在では、自分が楽しむものから劇場で上演するなど、観客に見せるという要素も加わっています。また、歌のメロディーや歌詞が似ていても意味や解釈が異なっていることがあり、地域や時代により変化してきたとも考えられます。

このマニュアルでは、北海道の札幌地方・静内地方・鶴川地方の3つの地方に伝えられている踊り8種を紹介します。

【札幌地方】

ハンロー（大地を踏みしめる踊り）



フチトト（酒はこびの踊り）



チロンヌプリムセ（狐の踊り）



【静内地方】

チャピア（あまつばめの舞）



ホイヤーオー（鶴の舞）



エルムンコイキ（ねずみとりの遊び）



■ 解説者

【鶴川地方】

ホリッパ（輪踊り）



札幌地方：札幌ウポポ保存会
竹内 明美さん



フッサヘロ（お祓いの踊り）



静内地方（新ひだか町）
：静内民族文化保存会
大川 勝さん



鶴川地方：鶴川アイヌ文化伝承保存会
片山 弘子さん



札幌地方

ハンロー (大地を踏みしめる踊り)



ハンロー

北海道札幌地方に伝わるハンロー (大地を踏みしめる踊り) は、この地方独自のもので、基本は輪踊りです。歌い手と踊り手に分かれ、多人数で踊ることもできます。

踊りは、反時計回りにまわり、途中で向き合う2人が交差します。交差する組の数に決まりはなく、(又は本来は全員が交差しますが) 本マニュアルでは、舞台を想定して、2組が交差します。

ハンローは、大地を踏みしめて魔を祓う踊りとして伝えられています。

■ 歌詞

- ♪ ハンロー ハンロー
- ♪ ハンロー イーサン
- ♪ ハンロー ハンロー
- ♪ ハンロー ハンロー イーサン ペシ 以上くりかえし

踊りのはじめは、歌に合わせてながら時計回りでまわり、輪の進行方向を向き、手を前で合わせて進みます。途中で、向かい合う2人が輪の中心に向かって進み、交差します。



■ 踊りの各部

《基本の動き》

左足を前に踏み出した後に右足を上げ、右足を下ろす時に両手を持ち上げ、手のひらを顔の左横で合わせます。



正面から



横から

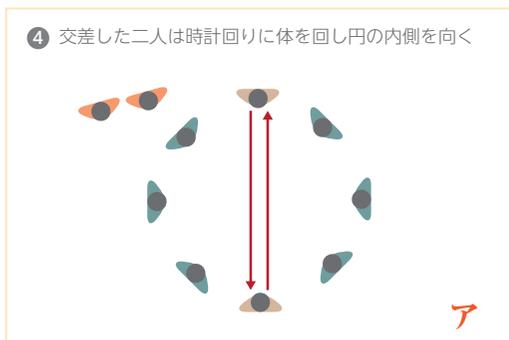
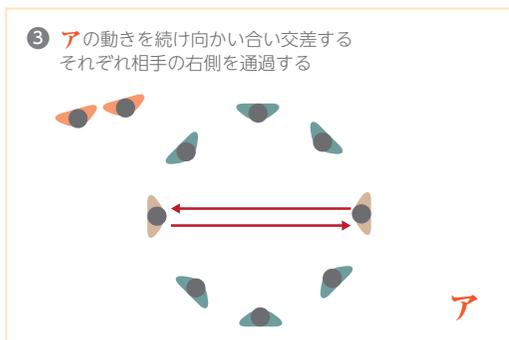
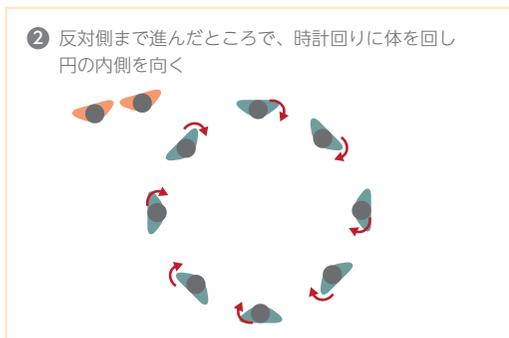
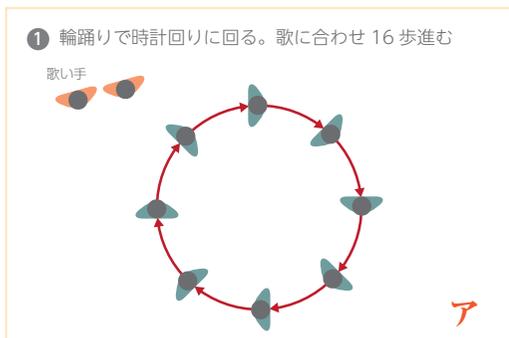
《交差する2人の動き》

輪の中心を向き、向かい合った2人は基本の動きを続けながら前に進みます。

交差するときは、それぞれ右側を通ります。



はじめの位置から反対側まで進んだところで、踊り手は時計回りで方向転換し、向き合います。
 交差する二組は、最初の組が交差して輪に戻ってから次の組が交差します。



他の踊り手は中心を向いて基本の動きを続けます。



2組の交差が終わると、再び時計回りの輪踊りに戻ります。



フチトノト (酒はこびの踊り)



フチトノト

「フチ」は、おばあさんのことで、「トノト」は、お酒のことです。各地域の「フチトノト」の踊りでは、酒造りの様子を踊りにしたものがありますが、札幌地方の踊りは、とねり村の「エカシ（おじいさん）」のところに、「サラニブ（背負い袋）」にお酒を入れて、吹雪の中を歩いて届ける様子を表しています。（年配の女性が演じることも多い踊りです。）

■ 歌詞

- ♪ フーチー トーノート
- ♪ アンニーナーニーナー 以上くりかえし

「フチトト」は歌い手と踊り手に分かります。歌い手の歌と手拍子に合わせ、杖を突きながら腰を曲げて歩き、途中で止まって、あたりを見回します。雪の中、行く手の確認をしながら進む様子と言われています。このマニュアルでは舞台を想定し踊り手は上手から下手に進みます。



■ 踊りの各部

《準備・道具》

踊り手の準備です。

着ている着物から左腕を抜き、頭から被ります。



道具の「サラニャ」には、詰め物をして紐を頭にかけて背負います。



もう一つの道具、「杖」は、右手に持ち腰を曲げます。左手は腰にあてます。



《基本の動き》

杖を突きながら、左足から歩き出し、3歩進んで、4歩目で止まり、左手で着物を持ち上げます。同時に顔を左に向けます。顔を左に向ける動作は2回行います。これをくりかえします。



踊り手の人数は自由で、進み方はその場の条件次第で、直線でも、輪を描くようにも踊ることができます。



踊り手は上手から下手へ移動

歌い手



歌に合わせて杖を突きながら歩く
立ち止まり左手で着物を持ち上げながら
顔を左に2度向ける



1 腰の左手で4拍
拍子をとりながら歩く

2 同じ4拍で
2度周りを見る



・杖を持つ



・上着の左袖を外し
頭からかぶる



・右手で杖をつき、
頭にサラニブを掛け、
腰をかかめて曲に合わせて歩く

チロンヌプリムセ^{きつね} (狐の踊り)



チロンヌプリムセ

「チロンヌ」は、狐で、「プリムセ」は、踊りのことです。「チロンヌプリムセ」では、歌い手と踊り手は分かれます。踊り手は、数匹の狐役と狩人役です。野原で遊ぶ子狐を、狩人が弓矢で仕留めて毛皮を剥ぎ、恵みに感謝して祈りを捧げます。舞台を想定した踊りです。

■ 歌詞

♪ サーヘイヨー サエーヨイサ
サーヘイヨーサ ソラ エンヨー
ソラ エボンサタ スイエ サーエンヨー 以上くりかえし

子狐役は、『うてるものならうってごらん』と狩人を馬鹿にするしぐさで、跳んだり、尻尾を振って踊ります。狩人は弓をつがえて、子狐たちの中に入り、一匹を仕留めます。毛皮を剥ぎ、肩に担いで下手に移動してオンカミ〔礼拝〕*します。



オンカミ

左右交互に2回ずつ
手をこすり合わせる



両手のひらを
上に向け3回
顔の前で上下させ、
胸元から下へおろす



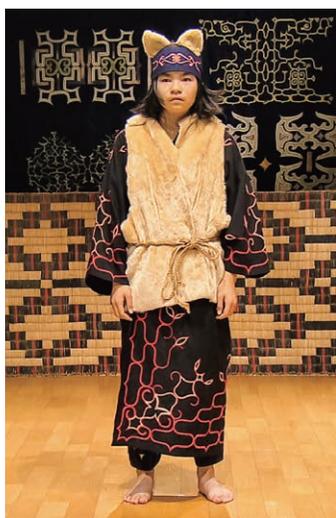
■ 踊りの各部

《狐の準備・道具》

狐役は、着物に尻尾を取り付けておきます。



獲物となる狐役は、尻尾付きのチョッキを着て腰のあたりを紐で縛ります。



《狐の動き》

狐の踊りは腰を曲げて、左右前方に両足で飛び跳ねます。手は足元でたたき、左右の肩近くに持ってくる動作をくりかえします。



歌が変わると立ち止まり、腰に手を当て左右に振ります。



《狩人の準備・道具》

弓と矢です。



小刀（模型）を身に付けます。



《狩人の動き》

狩人は、矢をつがえて弓を水平に構えます。膝を曲げ、ゆっくり歩きながら弓矢を左右に振ります。



《狩人と狐の動き》

狐の踊りの中に入った狩人は、一匹の獲物となる狐に近寄り矢を射ます。

狐は矢をつかんで倒れます。



狩人は狐に足をかけて矢を抜き、狐の横に座って感謝を表してオンカミします。



オンカミ

狩人は小刀で、狐の腹を切る動作をして、紐を解きます。



狐は、狩人の動きに合わせて転がりチョッキを脱ぎます。



狩人はチョッキをたたみ、毛皮を紐で縛り、オンカミします。



オンカミ

《狩人の動き》

狩人は立ち上がり、毛皮を肩に担いで下手に向かいます。下手側で立ち止まり両手で弓矢を持ってオンカミします。

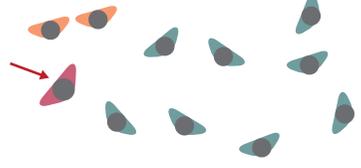


【踊りのながれ】

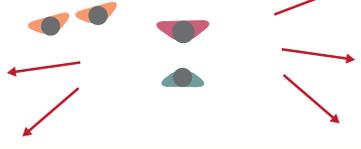
- ① 舞台上手と下手よりアの踊りで狐役が入る



- ② 下手奥より狩人役が登場する



- ③ 狩人が獲物役を狐を矢で打つとほかの狐は退場



狩人は矢をつがえ弓を水平に構え左右に弓矢を大きく振りながら移動



狐に足をかけて矢を抜き横に座る



オンカミ ※22ページ下部参照



小刀を出し腹を切り皮をくぐぐさで紐を解く



狩人の動きに合わせて狐は転がりチョッキを脱ぐ



狩人はチョッキをたたみ毛皮を紐で縛る



オンカミ※



毛皮を肩に担ぎ下手側に向かう



下手側で立ち止まり弓矢を両手で持ち上下させてオンカミ



ア 腰を曲げ、両足を揃えて左右前方に飛び跳ねる。手は足元でたたき、左右の肩近くを持ってくる動作をくりかえす

- 1 屈んで足元で手をたたく 2 左右の肩近くに引き寄せる 3 歌が変わると立ち止まり腰に手を当て左右に振る



1 と 2 の動作で左右前方に跳ねて進む



静内地方

チャピア (あまつばめの舞)



チャピア

静内地方の踊り『チャピア』は、あまつばめが空を舞う様子を表したもので、あまつばめの鳴き声が踊りの名前になっています。あまつばめは静内地方（新ひだか地方）に飛来し、春から秋にかけて雨上がりになると空を飛びまわります。あまつばめの飛び交う姿を表した歌と踊りです。

4人で踊ることが多い踊りですが、時には8人2組で、交代で踊ることもあります。静内地方では子どもだけではなく、大人も男女の区別なく踊ります。

■ 歌詞

♪ チャピーア ピア ピア

♪ チャピア

以上くりかえし

あまつばめは、一方方向だけでなく、四方から飛んできます。そのような飛び交う様子を表現しています。四方に立った向かい同士、お互いに交差しながら、手を上げたり、肩に指先を当てたりする様子が、あまつばめの飛び交う姿の特徴をとらえています。



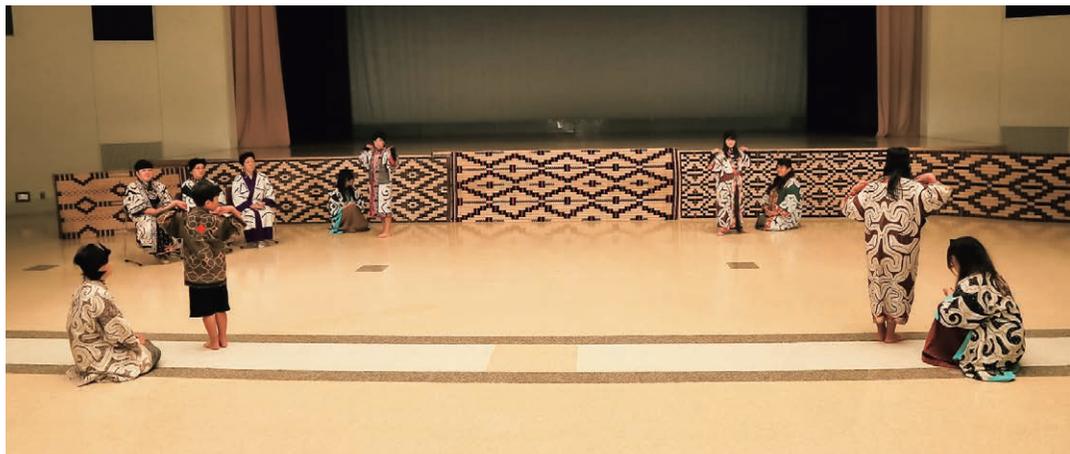
■ 踊りの各部

《基本の動き》

両肩を手で叩きながら、跳ねます。
2人で背中合わせに踊ります。



踊り手は離れて立ち、横に跳ね、中央で交差し行き来します。2組の踊り手は、交互に十字に移動します。



スタート位置には人が座り、手をたたいて拍子をとります。



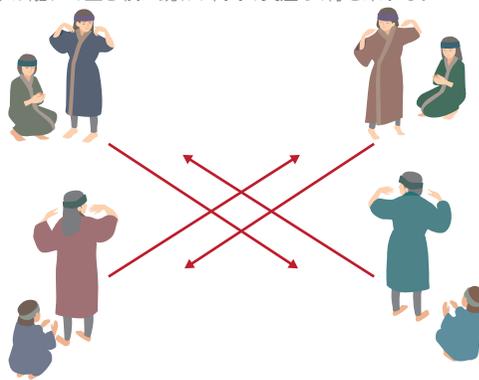
【踊りのながれ】

ア 両手を肩にあて肩をたたきながら跳ねる



2人一組で踊る

踊り手は離れて立ち横に跳ね、中央で交差し、行き来する。



二組の踊り手は交互に十字に移動する
両脇のスタート位置には人が座り手拍子をとる

「チャピア」は祭事の時や普段でも人々が集まると、楽しみとして踊りました。



ホイヤオー (鶴の舞)



ホイヤオー

かつて、鶴が多く飛来していた静内地方に伝えられてきた「ホイヤオー(鶴の舞)」は、鶴のしぐさを表現した踊りです。鶴の鳴き声が踊りの名前になっていると考えられています。神である鶴は『サロレンカムイ』と呼ばれ、ホイヤオーは神々に捧げる奉納の踊りです。「鶴の舞」は、北海道各地にあります。この「ホイヤオー」は静内地方特有のもので、昔からの歌と踊りで、女性が踊ります。

■ 歌詞

♪ ホイヤー ホイヤー オー ホイヤオー ホイヤオー エッサ オー サー オー

以上くりかえし

片仮名の「ハ」の字の形に並び、手を胸元に当てたり、広げたりしながら、前かがみになったりのけぞったり、上半身を回したりしますが、これらの動作で、鶴の動きを表現しています。



■ 踊りの各部

《準備・基本の動き》

踊りの準備です。腕を伸ばして、着物の両袖口をつかみます。



〈基本動作①〉

両手を胸に置き上体を前に倒しながら両手を広げ身体を戻す時に、手も戻します。

これを3回くりかえします。



〈基本動作②〉

両手を胸に置いて、右腕を広げてもどす動作を3回行い、左腕も同じ動きを3回くりかえします。
このとき、右腕が胸元にもどってくると同時に、左腕の動きをする。



〈基本動作③〉

3つ目は右、左の順に腕を広げて、身体を傾けながら6回まわし、両手を胸に戻します。



これらの3つの基本動作を続けて踊ります。

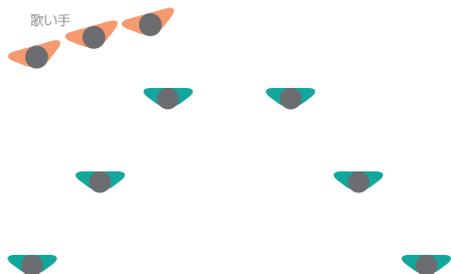
踊りの最後は、基本動作①を続け、向かって左の人は時計回り、右の人は反時計回りでまわり、向かい合います。



ホイヤーは、主に祭事の時に、祭壇の前で踊られていたと伝えられています。

【踊りのながれ】

ハの字に並び踊り手はその場で踊りを続ける



アイウの踊りをくりかえす

ア 袖をつかみ両腕を胸の前に置く、上体を前に倒す時に両手を下に広げ身体を起す時に両手を胸に戻す動作を3回くりかえす

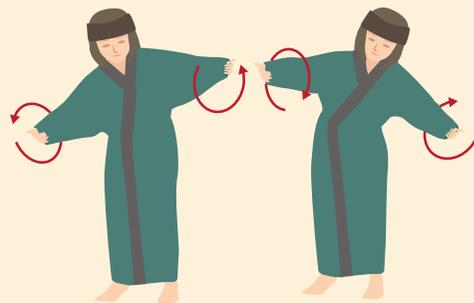


イ 袖をつかみ腕を胸の前に置き右腕を広げて戻す動作を3回くりかえす



左腕でも同じように3回くりかえす

ウ 袖をつかみ左右の順に腕を広げ体を傾けながら両腕をまわす、6回まわした後両腕を胸に戻す



エルムンコイキ (ねずみとりの遊び)



エルムンコイキ

「エルムン」はねずみのことで、「エルムンコイキ」は、静内地方では「ねずみとりの遊び」と呼ばれています。子ねずみに餌^{えさ}を与えるために出てくる親ねずみをなんとか捕らえようとする仕草を表現したもので、古くから伝わる静内地方ならではの踊りです。大人から子どもまで参加することができ、遊びや余興でもある、踊りです。この踊りでは、親ねずみが男性たちの機嫌をとるしぐさと、捕まえようとする男性たちの仕草がユーモラスに表現されています。

■ 歌詞

♪ スンカイナー スンカイナー
ハー キナクスー ハーラルソー (スン) 以上くりかえし

歌い手と踊り手に分かれ、踊り手はねずみの親子役（ここでは3組）と罾を仕掛ける役の男性2人です。
ねずみについては、男女どちらも演じていたようです。



親子ねずみの最初の2組は、まんまとみかんを手に入れます。



3組目は捕まり、縄で叩かれ下手へ向かいます。舞台を想定した踊りでは3組目が捕まりますが本来、遊びなので決まりはありません。



■ 踊りの各部

《準備・道具》

〈罨の道具〉

- ・みかん
- ・縄（紐）
- ・シントコ（行器）の蓋



シントコの上にみかんを置き、縄を一重結びにして直径30センチほどの輪を作り、両端を2人の男性が持ちます。

この縄が罨です。



《基本的な動き》

〈ねずみの動き〉

親子のねずみが、下手または上手の奥から両手を膝元左右でたたき、跳ねながらみかんの置かれた場所へ移動します。



親ねずみは、床や蓋に手をついたり、男性の機嫌をとる仕草をします。その間、子ねずみは親ねずみの後ろで屈みながら跳ねまわります。



〈ねずみと男性の動き〉

親ねずみは男性の気をそらします。



ねずみは輪の中に手を入れ、みかんを取ります。
男性は縄を引ますが、捕まえることができずに、
まんまと逃げられてしまいます。



親子ねずみ2組目も、罠にかけることができません。



最後に出てくるねずみは、両手でみかんをつかみ捕まります。



男性の一人は、縄でねずみをたたきながら下手奥に向かいます。



「エルムンコイキ」は、見ている人も参加することができる踊りで、次々と参加してなかなか終わらない踊りだといいます。

【踊りのながれ】



親ねずみは床や蓋に手をついたり、男性の機嫌をとる動き、その間、子ねずみは親ねずみの後ろを跳ね回る



親ねずみは男性の気をそらしながら縄の輪の中に手を入れてみかんをとる



男性は罾の縄を引いて捕まえようとする



最後に出てくるねずみは両手でみかんを取ろうとし罾につかまる



男性の一人は捕まえたねずみを縄でたたきながら、下手奥に向かう



鷓川地方

ホリツパ (輪踊り)



ホリツパ

「ホリツパ」は「輪踊り」と言われ、輪の内側を向いて手をたたきながら時計回りに踊ります。カムイノミ（神への祈り）が終わった後に、「ウボポ」（座り歌）など様々な余興が披露され、最後にこの「ホリツパ」を踊ります。かつては、皆が疲れるまで踊ったと伝えられています。「ホリツパ」は男女、人数に制限はありません。途中で歌が変わると男性は刀を抜いて踊ります。かつては、2つ目の歌を速く歌うようになると輪の中に人が出て、踊り比べをしていたそうです。

■ 歌詞

〈前半部〉 ♪ ルイーハンルイルイサ ルイーハンルイサー
♪ ルイーハンルーアーエー ルイーハンルイサー (チョイーチョイ) 以上くりかえし

〈後半部 (刀を抜く時)〉

♪ ヘッサオー ホイヤオー
♪ ヘッサオー ホイヤオー 2グループで輪唱 以上くりかえし

※ホイヤオーは語尾音が2パターンあります。

「ホリッパ」は、皆で踊りながら歌い、手をたたきながらリズムをとって踊ります。このマニュアルでは、踊りの最後は舞台を想定して並び、オンガミ [礼拝] します。



■ 踊りの各部

《基本の動き》

女性の動きです。手をたたき、送り足で横に移動します。
膝は屈伸を続けます。



〈男性の道具・基本の動き〉

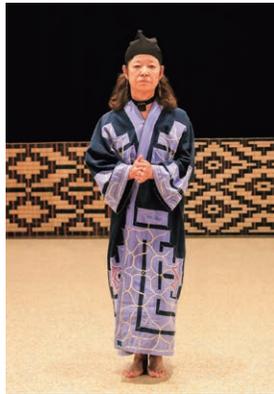
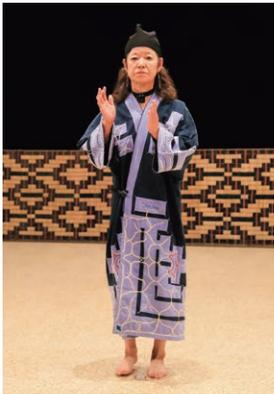
男性は、刀を取めた刀掛けを肩にかけます。

男性の最初の動きは、左手で鞘をつかみ、右手で刀の柄をたたきつつ、膝を屈伸しながら横に進みます。



2つ目の動きは、刀の刃を自分に向けて立てて持ち、刀を前に突き出して音をならしながら左へ進みます。膝の屈伸は続けます。





踊りの最後は、男性は前に並んで刀を収めオンカミ [礼拝] します。

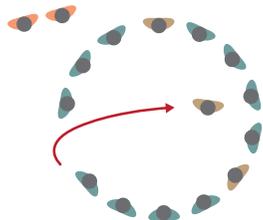


輪の内側を向いて時計回りに移動



男性はアを踊り曲が変わったらイを踊る

踊りの最後、女性は後ろへ、男性は中へ並び



男性は中へ並びオンカミをして終了



女性

女性は手拍子ごとに膝を屈伸しながら横に進む。
時計回りにまわる



ア 男性は一步横に歩くごとに左手で鞘を握り、右手で刀の柄をたたく。
膝を屈伸しながら横に進む



イ 曲が変わったら男性は剣を抜き刃を自分に向け、刀を前に突き出し音を出す。膝を屈伸しながら横に進む



最後、男性は中心に並び



フッサヘロ (お祓いの踊り)



フッサヘロ

「フッサヘロ」はお祓いの踊りです。昔、コタン [村・集落] に流行病があった時に、その病魔を祓う踊りとして伝わっています。中側で座っている人が病人役です。アイヌ民族は、病気は鳥が運んでくると考えているので、病人役の人たちがカンコワ ホーテルケ [鳥が、病気を運んで来たよ、病気が飛び跳ねているよ] と歌います。同時に後ろの人たちが、その病人に、息を吹きかけて、その病魔を祓います。「フッサヘロ」は、踊り手が歌いながら踊り、前に座る人と、後ろで踊る人はそれぞれ歌が違います。

■ 歌詞

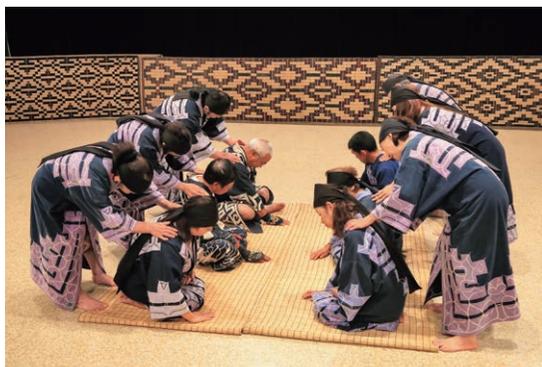
〈病人 (座って踊る人)〉

♪ カンコワ ホーテルケ カンコワ ホーテルケ 以上くりかえし

〈後ろで立って踊る人〉

♪ フッサヘロ フッサヘロ 以上くりかえし

踊り手の数に決まりはありませんが、この本マニュアルでは座る人6人、立って踊る人6人の計12人で踊ります。



後ろの人がフッサ、フッサと息をかけながら移動するときは、足で地面を踏みつけるように踊ります。



■ 踊りの各部

《基本の動き》

病人役の人は、顔を左に向けながら右手を床につけ、膝の上に置く動作を続けます。後ろに立つ人は、体を左右に傾けながら前の人を両手で軽くたたきます。



〈後ろに立つ人の動き①〉

ひとつ目は、腰に両手を当てて踊ります。
座る人の肩をたたいた後、反時計回りで半周します。
体を右左に向けながら大地を踏みつけて歩きます。



〈後ろに立つ人の動き②〉

二つ目は、手の平を上に向けて腹の前で添えます。
反時計回りで半周する時にこの姿勢で踊ります。
体を右左に向けながら大地を踏みつけて歩きます。



〈後ろに立つ人の動き③〉

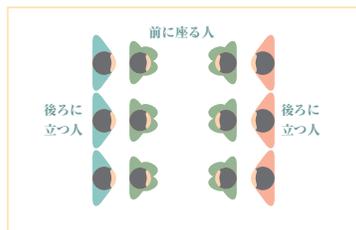
三つ目は、左手を肩に乗せ、右手を横に伸ばします。
反時計回りで半周する時にこの姿勢で踊ります。
体を右左に向けながら大地を踏みつけて歩きます。



踊りの最後は1つ目の動きに戻ります。



【踊りのながれ】



イ 後ろに立つ人

腰に手を当てて体を右左に向けながら、大地を踏みつけて歩く



ア 後ろに立つ人

体を左右に傾けながら前の人の肩を両手で軽くたたく



前に座る人

顔を左に向けながら右手を前の床につけ、膝に戻す動作をくりかえす



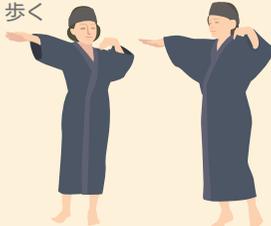
ウ 後ろに立つ人

手のひらを上に向け腹に当てる。体を右左に向けながら、大地を踏みつけて歩く



エ 後ろに立つ人

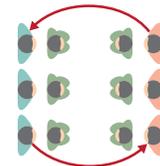
左手を肩にのせ、右手を横に伸ばし、体を右左に向けながら、大地を踏みつけて歩く



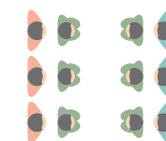
① ア



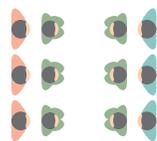
② イで反時計まわりで半周



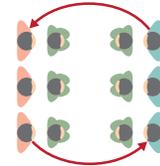
③ イで足踏み



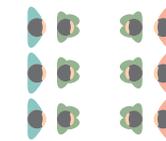
④ ア



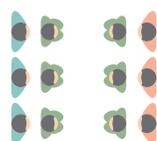
⑤ ウで反時計まわりで半周



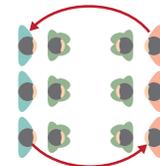
⑥ ウで足踏み



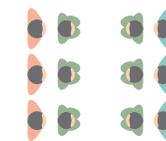
⑦ ア



⑧ エで反時計まわりで半周



⑨ エで足踏み



最後は ② ③ をくりかえし終了

おわりに

日々の生活の中で生まれ、受け継がれてきたアイヌの踊り。

人々が集まれば、特別な楽器がなくとも踊りが始まりました。神への感謝、そして自分たちの楽しみのために踊りました。踊りは、アイヌの人々にとって暮らしになくてはならないものだったのです。

現在、アイヌの踊りは北海道の各地に伝承されており、地方ごとの特徴を持っています。それらの踊りはアイヌ古式舞踊として国の重要無形民俗文化財に指定されています。

〈札幌地方〉



ハンロー

〈静内地方〉



チャビア

〈鶴川地方〉



ホリッパ



フチトト



ホイヤオー



フッサヘロ



チロンヌプリムセ



エルムンコイキ

■出演者 (敬称略・五十音順)

【札幌地方】 ハンロー・フチトフト・チロンヌアリムセ

〈札幌ウポポ保存会〉

[踊り] 川上 さやか 木幡二三子 竹内 明美
竹内 智秋 藤岡千代美 藤岡 照実
藤岡 良子 山崎 良子 結城 志穂
結城 泰 結城 智世 結城 舞
結城 陸 結城 恋迦

[歌] 小松田初美 竹内 明美 藤岡千代美
藤岡 良子

[解説] 竹内 明美

【静内地方】 チャビア・ホイヤオー・エルムンコイキ

〈静内民族文化保存会 (新ひだか町)〉

[踊り] 阿部 蒼介 阿部 望 阿部 真心
伊藤 幸子 大川 勝 大村 あゆ
大村 幸恵 大村 真代 大村 美和
大村 幸菜 村邊小百合 村邊 司

[歌] 川島江美子 合田 クミ 高橋三三五

[解説] 大川 勝

【鶴川地方】 ホリッパ・フッサヘロ

〈鶴川アイヌ文化伝承保存会〉

[踊り] 芦谷 明美 泉 紀代乃 押野千恵子
尾上千鶴子 片山 弘子 小石川みどり
今野キサ子 佐渡日出男 柴原 邦彦
柴原 弘美 新田 増美 本間 英子
三上 勉 吉村 清美

[解説] 片山 弘子

参 考 文 献

アイヌの踊りの参考となる文献を紹介します。

- 岡田和夫・松宮文子・村上紀子・平野正美
1998：『新版 絵でみる 表現・民舞 指導のポイント』株式会社あゆみ出版
- 財団法人アイヌ民族博物館
1993：『アイヌ文化の基礎知識』株式会社草風館
- 日本民俗舞踊研究会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊 昭和61年度文化財国庫補助事業調査報告書』
- 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』
昭和60年度北海道アイヌ古式舞踊連合保存会委託事業
- 田村すず子
1987：『アイヌ語沙流方言辞典』株式会社草風館
- 北海道教育委員会
1993：『平成4年度 アイヌ古式舞踊調査報告書(Ⅲ)―三石・弟子屈・札幌・常呂―』
- 北海道教育委員会
1991：『平成2年度 アイヌ古式舞踊調査報告書(Ⅰ)―白糠・新冠・鶴川―』
- 日本放送協会
1965：『アイヌ伝統音楽』株式会社日本放送出版協会

踊りを体験できる施設

アイヌの踊りを体験できる施設をいくつか紹介します。
要予約等のため事前に各施設へご確認ください。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| ●阿寒湖アイヌシアター イコロ | 釧路市阿寒湖温泉4丁目 |
| ●一般財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草町2-3-4 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●昭和新山アイヌ記念館 | 有珠郡壮瞥町昭和新山 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷61 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
踊り

【ウポポ・ホリッパ・リムセ】
札幌・静内・鶴川編

2016年7月 発行

発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7（5階）

TEL(011)271-4171/FAX(011)271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。